

## 平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

高齢者における簡略化 Berg Balance Scale の信頼性と妥当性

学位の種類: 修士 (理学療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 理学療法科学系

学修番号: 08895606

氏名: 松嶋美正

(指導教員名: 池田 誠)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A4 版) に収めること

【目的】見守りなく屋内歩行が可能である高齢者において、パフォーマンステストの一つである Berg Balance Scale (BBS) をラッシュ分析により簡略化し、その簡略化 BBS の信頼性、妥当性について明らかにすることを目的とした。

【方法】対象は通院、通所ならびに施設入所サービスを利用する高齢者 120 名 (平均年齢  $79.2 \pm 6.9$  歳 65-93 歳) であった。日常関連動作 14 項目から構成される BBS を測定し、対象者に対する BBS 項目の難易度、ラッシュモデルに対する適合度から BBS14 項目中、5~8 項目 (5~8BBS) を選出した。これら簡略化 BBS と BBS 原法、その他の身体機能評価 (握力、ファンクショナルリーチテスト、最大 10m 歩行) との関連性を比較した。また、BBS 原法、簡略化 BBS と転倒、改定転倒自己効力感尺度 (MFES) との関連性を調査した。

【結果】簡略化 BBS の内的整合性は、原法とほぼ同等であり、特に 8BBS はクロンバック  $\alpha = 0.86$  と高かった。また、簡略化 BBS は、BBS 原法と高い相関 ( $r = 0.96 \sim 0.99$ ) を示し、その他の身体機能評価スケールとは中等度の相関を示した。転倒に対する BBS の感度、特異度は、51 点で感度 79.3%、特異度 33.0% であった。簡略化 BBS の中でも、最も信頼性が高かった 8BBS の場合は、26 点の時で感度 79.3%、特異度 34.1% であった。BBS 原法と 8BBS の各歩行レベルに対する平均得点において、独歩と他の各レベルに有意差が認められた。 ( $p < 0.01$ )

【結論】BBS の 14 項目を 8 項目と減少しても、その信頼性、妥当性は維持された。また、評価時間も 10 分以内に測定可能な評価スケールとなり、臨床的有用性が高まった。簡略化 BBS においても信頼性や妥当性が維持されたことは、BBS のみならず評価スケールの項目中に対象者によっては適当ではない運動課題を含んでいる可能性もあるため、吟味して行う必要があることが示唆される。高齢者人口の増加に伴い、要介護状態にいたる直接的原因の一つである「転倒による骨折」の予防が重要視される中、対象者の身体機能を概観する手段として日常関連動作などにより評価可能なパフォーマンステストにより定量化が可能な評価スケールを臨床場面で利用していくことは価値があると思われる。

キーワード: バーグバランススケール, ラッシュ分析, 簡略化バーグバランススケール, 信頼性, 妥当性